

令和5年度呉市総合計画審議会における提案・意見等に対する回答

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
1	<p>広市民センターにある窓口はスペイン語にも対応できるが、英語については、相談を受けられる程ではないと思っている。今後は、様々な機器による対応も可能かと思うため、充実させて欲しい。</p>	<p>地域協働課 市民窓口課</p>	<p>外国人相談窓口では、対応言語以外での相談があった場合は、ポケットーク（AI通訳機：74言語対応）を利用しています。また、当機器での対応が難しい場合は、東部地区外国人相談窓口と呉市外国人相談窓口でタブレット（フェイスタイム）によるテレビ電話機能を利用し、対面での対応を行っています。今後ともデジタル機器を活用し、各窓口と行政の各部署とも連携を図りながら、外国人住民の支援を行ってまいります。</p>
2	<p>広島県における今年度の新たな取組として、より多くの県民の方々に一人一人の防災計画、いわゆるマイタイムラインを作成していただくため、LINEを活用して、より簡易な方法で作成していただけるシステムの構築を進めている。</p> <p>地域単位でのマイタイムラインの普及促進を進めるため、自主防災組織等での呼びかけ体制の構築とマイタイムラインの作成を一体的に展開することとしている。</p> <p>また、楽しみながら防災知識等の学習を進めるとともに、状況に応じた行動や地域のリスクを考えながらやることのできる中学生用の防災eラーニング教材を今年度中に開発することとしている。</p> <p>平成30年度の豪雨災害から5年が経過する中、呉市においても、様々な取組をされていると承知しているが、引き続き、県、市町が連携して防災体制の構築に努めていきたい。</p>	<p>危機管理課</p>	<p>各地域の自主防災組織や自治会等に対して、避難の呼びかけ体制の構築とマイタイムラインを作成する取組などを推進しております。また、地域防災の新たな取組である「地域防災タイムライン」の活用についても、避難訓練や防災講話等の機会を捉えて活用を進めてまいります。</p> <p>引き続き県と連携して防災体制の構築の取組を推進してまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
3	<p>地域の防災や市民活動に対する、若者の参画が大事になると思うが、どのように参画を求めていくのかが、今後の重要な課題になる。その辺りを様々な取組の中に包含していく考え方が必要になってくるのではないか。市や地域の活動に対して、若者を取り入れる仕組みづくりを検討して欲しい。</p>	<p>地域協働課 危機管理課</p>	<p>【地域協働課】 地域活動に対する若者の参画については、令和2年度から令和3年度にかけて設置した「呉市住民自治組織あり方検討委員会」の委員に大学生に就任していただき意見を伺うとともに、委員会において、若者世代や子育て世代等に対してワークショップを開催し意見を伺いました。 お伺いした意見等を基に作成した「事例集」には、若い世代・子育て世代に自治会活動（市民活動）に参加してもらう方法なども盛り込まれており、全自治会にお配りし活用いただいております。 今後とも、若者の意見が地域活動に取り入れられる仕組みづくりについて、調査・研究していきたいと考えています。</p> <p>【危機管理課】 危機管理課では、小中学生などを対象に防災講話を実施し、児童・生徒の防災意識向上に取り組んでおります。また、毎年実施している呉市防災リーダー養成講習では、自主防災活動の担い手となる防災リーダーを養成しており、中学生以上の若年層の受講も可能としております。 今後とも若者の地域防災活動への参画や防災意識の向上について、有効な手段を検討していきます。</p>
4	<p>防災対策や訓練をする際には、外国人住民に対する情報伝達に留意する必要がある。準備ができていなければ、災害発生時に対応することができない。外国人住民に対し、どのように防災情報を伝え、逃げてもらうのか、事前に準備をして欲しい。</p>	<p>危機管理課</p>	<p>外国人住民への防災情報の伝達手段として、呉市国際交流協会が発行する「呉市で暮らす外国人のための生活ガイドブック」に、防災に関する情報や開設避難所の情報を掲載しているほか、外国人の方が災害時に情報を取得できるよう、災害時多言語情報アプリ・WEBサイト等のURLを掲載しております。 また、呉市国際交流協会Facebookでは、外国人住民に向けてやさしい日本語で避難情報を発信しております。 今後とも国際交流協会など関係団体と連携して、外国人住民に対する防災情報の伝達に努めていきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
5	<p>JICEの国際研修交流などは呉市職員も活用できるかと思うし、外国人の方に向けた、日本語教育などのサービスの活用、協力体制の強化など、呉市と一緒に取り組むことができるのではないか。</p>	<p>地域協働課 人事課</p>	<p>【地域協働課】 JICE（一般社団法人日本国際協力センター）が行う定住外国人向け「しごとのための日本語（外国人就労・定着支援事業）」は、本市においても令和元年から実施しており、一緒に取り組んでおります。この度、JICEの中国支所が開設されたことで、より連携し、地域に住む外国人のニーズに合った取組を検討してまいります。</p> <p>【人事課】 働き方に関する価値観やライフスタイルは多様化しており、個々の職員の成長やキャリア形成の支援として、国際研修交流などへの呉市職員の参加を位置付けることも考えられます。</p>
6	<p>WEB版ハザードマップの構築は、若い人にとって非常に良い取組であると思う一方で、閲覧者が限定されることを心配している。そのため、被災状況や復興状況等がわかるウェブサイトの構築も含めて、繰り返し周知を行っていく必要がある。</p>	<p>危機管理課</p>	<p>令和3年度に構築したWEBハザードマップは、警戒区域を任意で指定して印刷できるほか、複数の警戒区域を重ねて表示するなど、様々な活用が可能な一方、高齢者などデジタル機器に不慣れな方には操作が難しい場合もあるかと思えます。</p> <p>危機管理課では、より多くの方にWEBハザードマップを活用していただけるよう、引き続き操作・活用方法も含めて周知していきます。</p>
7	<p>ハザードマップに関しては、画面上でスクロールしながら全体を把握するのは難しいという感覚があり、紙媒体で広げて見る方が把握しやすいと感じている。そのため、WEB版を整備しても、紙媒体を1年に1回配布し、確認を促す取組は、引き続き行う必要がある。</p>	<p>危機管理課</p>	<p>令和3年度のWEBハザードマップの構築後も、引き続き紙媒体のハザードマップを危機管理課や各市民センターで配布しており、住民の方にとって使いやすい媒体を選んでいただいております。</p> <p>なお、紙媒体のハザードマップの更新、配布については、今後の警戒区域の見直し状況や住民の要望などに応じて検討していきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
8	<p>被災地に説明版を設置する取組は、非常に良いことだと思う。例えば、説明版にQRコードを付けるなどして、多くの方に関わってもらえる仕組みが必要。QRコードを読み取り、看板に記載のある情報以外の、体験者の生の声が聞き取れるような形も良いのではないか。看板の情報はいずれ見てもなくなってくる。QRコードのリンク先を更新し、新たに多くの関係者に携わっていただくことで、色々な人に継続的に見ってもらうことができるのではないか。</p>	復興総室	<p>今年度、平成30年7月豪雨災害についてまとめたウェブサイトを作成します。 説明板には、QRコードを読み取ることで、そのウェブサイトへ繋がることができ、看板に記載されていない情報(映像資料や復興ツーリズムに繋がる情報など)も見えていただけるようにする予定です。 なお、映像資料には、被災された方や当時捜索活動に従事された方のインタビューも収録する予定です。</p>
9	<p>障害を持った方が十分に活躍できる社会を作っていくことが呉市の魅力アップにも役立つため、見える形で取り組んで欲しい。</p>	障害福祉課	<p>障害のある、ないにかかわらず、市民一人ひとりが十分に活躍できる社会とは、仕事や趣味など各々が望む分野で自己実現が達成できる社会と考えています。 しかし、障害のある方には、社会の中に様々な障壁(障害によるものや社会的な偏見・無関心等)があり、それを取り除くには行政はもちろん、事業者や市民一人ひとりの正しい理解と配慮が必要です。 障害福祉課においては「心のバリアフリー」の普及・啓発のためのパンフレットの作成や、コミュニケーションを円滑にするための用具等の購入費用など、事業者等が様々な障壁を取り除くための合理的配慮を行うための費用を助成する事業を行っています。 この助成事業では、実施された事例を、「その事業が実施される背景(障害のある方の困りごと)」も含めて紹介することで、市民の理解促進を図るとともに、市内に多くの合理的配慮が広がり、障害のある人も、いろんな場所や事業に参加しやすい環境にしたいと考えています。 障害のある人が、障害のない人と同じように、様々な活動をいきいきとする姿を目にする機会が増えること、一緒に活動する場が増えること、そのために必要な取組を検討し、実施していきたいと考えております。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
10	<p>住民自治組織のあり方の検討委員会に関して、報告書を見ると、市からの依頼事項が多いことが課題の1つとして挙げられる。今回の審議会でも電子データによる資料の配布を開始している。自治会においても、様々な掲示物など電子化できることを市が協力することが必要。若い人たちの分だけでも電子データで配布できれば自治会の会長や、役員の負担も減ると思うので、ITを活用し自治会の負担軽減を呉市主導で行って欲しい。</p>	<p>地域協働課 行政改革デジタル推進第1課・第2課</p>	<p>呉市では、スマートチャレンジくれの取組として、令和4年度から、デジタルツールを活用した自治会活動のモデル事業を実施しています。</p> <p>本取組は、自治会運営に電子回覧板機能を持った情報発信ツール（アプリ）をご利用いただくことで、自治会役員の負担軽減や情報伝達の利便性向上についての効果や課題の検証を行っております。</p> <p>現在、3つの自治会にご参加いただいております。参加いただいた自治会には、市からの配布物・回覧物について、電子データでの送付も開始しております。</p> <p>今後、より多くの自治会で活用していただけるよう、参加団体の募集や広報等を積極的に進めてまいります。</p> <p>なお、市からの配布物・回覧物については、令和5年9月から、市民に広く市政情報を提供することを目的に、市ホームページへの掲載を行っており、自治会員もホームページを見れば、自治会からの配布・回覧より早くかつ後からいつでも見ることができます。</p>
11	<p>トイレの改修や給食の充実など、良い環境の中で子どもたちが学んでいけるかと思っているが、学力向上を図ることも大切。学ぶ意欲を引き出すため、先生の手もつけて欲しいと思っており、学力向上も大事にして欲しい。</p>	<p>学校教育課</p>	<p>教育委員会では、教職員向けリーフレット「呉の学校教育」を作成し、「子どもの問いを生かした『考える授業づくり』」を進めています。授業改善を教員が着実に進めるよう、指導主事による学校訪問や、年間を通して複数回の教員向け研修を実施しています。</p>
12	<p>高齢者向けのスマートフォン教室の開催について、とても良い取組だと思っている。コロナ禍においても、スマートフォンでの申込みなどに対して、高齢者も戸惑っていた。そのため、呉市全体の高齢者の人に向けて、きめ細かく、こうした取組を行って欲しい。</p>	<p>高齢者支援課</p>	<p>ICTの利用を不得手とする高齢者を対象に、身近な場所でデジタル機器への接触機会を作り、スマートフォンの操作方法を習得し、ICTの利便性を体感することができるよう支援をしています。教室参加者の意見を聴きながら、より市民のニーズに添った教室になるよう取り組んでまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
13	<p>幹線道路が渋滞している際、路地を通り抜ける車が多い。海外と比較して、日本では、学校や商店街の付近にハンプが設置されていない。幹線道路の整備も大切だが、特に小学校や中学校などの学校の近くでは、既存の道路の見直しも必要。子育てや市民生活の中で、安心して暮らせるまちづくりに直結していくのではないか。</p>	<p>学校安全課 土木整備課</p>	<p>【学校安全課】 通学路については、児童生徒の通学の安全確保を図るため、地域、保護者、学校が連携し、通学路の安全点検を定期的に行っており、学校は、点検結果を基に、必要に応じて改善要望書を作成し、教育委員会へ提出します。教育委員会は、改善要望書に基づき、関係機関等による合同点検を通して、危険要因を明らかにし、交通安全対策を実施しております。</p> <p>【土木整備課】 道路整備にあたっては、これまでも幹線道路に限らず、地域の合意形成が図られた小・中学校の通学路についても、区域（ゾーン）を定めて最高速度30キロメートル毎時の速度規制を実施するとともに、ハンプ等の安全対策を必要に応じて組み合わせ、区域内における速度抑制や、区域内を抜け道として通行する行為の抑制等を行う生活道路対策である「ゾーン30」をはじめ、歩道の整備、バイパス道の整備等、歩行者の安全が確保できるよう道路整備を行っており、今後も取り組んでいきます。</p>
14	<p>防災行政無線の放送について、広地区は、地形上の問題で音声がかたまり、聞き取れない場合が多い。話し方や、声の大きさの問題もあるのかと思う。押し込みでは、熊野町の放送と被ったりして、どちらの放送かわからないといったことも起きている。インターネットが使えない高齢者の方にいち早く情報を伝達するためにも、マイクの設置や話し方を工夫して欲しい。</p>	<p>危機管理課</p>	<p>防災行政無線から放送した情報を聞き逃した方や放送が聞き取りにくい方への対応として、放送内容を電話で確認することができる「呉市防災行政無線テレホンサービス」を運用しています。</p> <p>また、メールやインターネット操作が困難な方に対しては、避難情報を自動音声で架電する「一斉電話伝達サービス」の利用をご案内しています。</p> <p>防災行政無線は周辺建物や気象条件で聞こえ方が左右されるため、どうしても聞き取りにくい場合も想定されますが、避難情報等を確実に伝達できる方法を今後とも検討していきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
15	<p>地域パートナーシップ支援事業について、多くの募集があり、地域のために取り組まれている方がこれほど多くいることを知った。一方で、こうした事業、取組を知らない方や団体もいると思うので、より周知を行っていきべき。そうすることで、地域の自治組織において、課題になっている部分が解決に向かうのではないかと。</p>	地域協働課	<p>呉市地域パートナーシップ支援事業の周知については、募集時に市政だよりや呉市ホームページへ掲載したり、地域内での回覧を行ったりしています。また、本年度から、採択された団体のうち、事業内容の周知を希望する団体について、呉市ホームページ内へ活動記事等の掲載を始めております。 引き続き、本事業の周知や広報等を積極的に進めてまいります。</p>
16	<p>部活動指導員の配置について、部活動指導員が1名となっているが、もう少し拡充する必要があると思っている。今後は、部活動指導員を配置し、教員の働き方改革や部活動の地域移行などを進めていく必要がある。</p>	学校安全課 学校教育課	<p>令和4年12月に示されたスポーツ庁及び文化庁のガイドラインでは、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることとされ、地域移行の達成時期については、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すことと見直されました。また、直ちに体制を整備することが困難な場合には、部活動指導員や外部指導者を適切に配置することが考えられると示されております。これを受けて部活動指導員の配置を、「運動部活動の地域移行推進事業」の取組の一つとして考え、増員も検討していきたいと考えております。</p>
17	<p>ハザードマップについて、活用、認知が進まないことが、全国的に問題点となっている。マイタイムラインとの連動や、ハザードマップを使って避難について考える取組など、ハザードマップの活用を検討して欲しい。</p>	危機管理課	<p>危機管理課では、地域の自治会や自主防災組織、小中学生などを対象として、ハザードマップを活用した災害図上訓練を実施し、危険な区域や避難所の位置、避難経路などの確認を行っています。 ハザードマップとマイタイムラインを連動させた活用については、避難訓練や防災講話などの機会に周知してまいります。 今後とも、ハザードマップのさらなる周知、活用に努めてまいります。</p>
18	<p>災害時における情報発信の態勢強化について、どのような情報をどのように伝えるべきかも考えて欲しい。地図を用いるなど、様々な形があるかと思う。</p>	危機管理課	<p>現在、災害時における警戒レベルや避難所などの情報は、速報性の観点から、防災行政無線による音声方法のほか、テレビ画面にテロップやデータが流れるように処置しています。 また、防災情報メールや一斉電話伝達サービス、市ホームページ、SNSなど多様な手段を組み合わせで発信しています。 今後も、災害時の情報を市民にしっかりと伝達していくため、地図の活用も含め、情報発信の方法の改善及び充実に努めてまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
19	<p>アーバンスポーツ施設の整備について、中央公園で研究的に調査した際に、住民の方から様々な意見を聞いたところではあるが、あまり幸せな状況ではないと捉えており、良い落としどころを見つけるためにも、対話が重要。</p>	スポーツ振興課	<p>アーバンスポーツ施設の整備のため、令和4年度にニーズ調査と適地調査を行いました。中央地区にも何らかの形で整備したいと考えており、現在、庁内で整備について検討しているところです。</p> <p>また、騒音やマナーの諸問題ができるだけ生活環境に影響しないよう住民やアーバンスポーツ関係者と対話していきます。</p>
20	<p>東広島市の安芸津のまちづくりの話をする中でも、瀬戸内の魅力を生かしたサイクリングの話が出ている。国道185号線を中心に、全体として売り出す視点が必要と捉えており、横の連携を意識していただきたい。</p>	観光振興課	<p>安芸灘とびしま海道は、アップダウンが少なく、初心者の方でも走りやすいサイクリングコースとして、幅広くサイクリストに知られています。</p> <p>安芸灘とびしま海道でサイクルイベントが開催されるなど、サイクリングは観光客の誘客や地元の方との交流を生み出す観光コンテンツとしても注目されているところです。</p> <p>これからも、隣接する市町と連携を取りながら、観光客の誘客や人流の促進を目的として、サイクリングを活用した観光施策を展開していきたいと考えています。</p>
21	<p>義務教育課程の中で、中学校の部活動の選択肢が非常に少ないことが問題。少子化で仕方のない面もあるかと思うが、学校によって格差が大きい。スポーツや、文化系の部活など、子どもたちが平等に選べる環境が理想である。どのような形で進めていくのが良いかは難しいところではあるが、何か案があれば良いということは常々思っている。</p>	学校安全課	<p>運動部活動を取り巻く状況としては、少子化による生徒数の減少の影響を大きく受けており、運動部活動の小規模化が進んでおります。また、運動部活動が教員の長時間勤務の大きな要因の一つとなっていることから、学校の働き方改革も考慮した部活動改革を進める必要があります。令和4年12月、スポーツ庁及び文化庁がガイドラインで「運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言では、令和5年度以降、休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする」ことが示されました。呉市では、令和5年度モデル事業としてハンドボール部において、専門性や資質を有する指導者を休日に派遣し、合同部活動を実施しています。今後も国や県の動向に注視しつつ、取組を検討したいと考えております。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
22	<p>地域包括支援センターがあるのだが、何をするとところなのか言葉だけでは分からない。地域包括支援センターという名前が、認知症対策センターのように、認知症という言葉が入れば、わかりやすく、行きやすくなるのではないか。他の地方では認知症という言葉を出しているところもある。</p> <p>他方、認知症という言葉を入れると、認知症ではないと言って本人が嫌がることもあるため、言葉の選び方は難しいところではあるが、地域包括支援センターは分かりにくいのではないかと思っている。</p>	高齢者支援課	<p>地域包括支援センターは、介護保険法に設置が位置づけられ、平成18年度から高齢者の総合相談窓口として市内8か所に設置しています。</p> <p>認知度向上のため、パンフレットの作成や広報活動をしており、徐々に認知度は上がっておりますが、名称が分かりにくいといった意見もあります。</p> <p>高齢者の総合相談窓口であることが分かりやすく親しみやすい「愛称」を付けることができるよう、呉市地域包括支援センター運営協議会において協議をいたします。</p>
23	<p>高齢者支援課に配置されているオレンジコーディネーターも伝わりにくい。ひとり暮らしの年配の方も、人の目を気にすることもなく、気軽に相談に行ける場所があると良いと思っている。</p>	高齢者支援課	<p>チームオレンジコーディネーターは、認知症の人や家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み（チームオレンジ）を作る役割を担っています。</p> <p>各地域包括支援センターにもチームオレンジを設置し、認知症の人を始め、高齢者の皆様が気軽に相談に行くことができるよう周知してまいります。</p>
24	<p>災害が発生している状況下では、早期避難の実現が最も重要。そのために、具体的にどのようなことに取り組めば良いかといった視点が欠けているのではないかと感じている。今のように体育館や小学校に避難してくださいと言っても、腰が引けてしまう。避難したくなるような、避難所の充実策を考えて欲しい。</p>	危機管理課	<p>避難所開設時には、避難された方が快適に過ごせるよう、可能な限り空調設備の整った部屋やカーペット敷きの部屋を案内するよう取り組んでいます。また、体育館を含む避難所に段ボールベッドやエアーマット、間仕切りなどを備蓄しており、居住性向上やプライバシーの確保に配慮しております。</p> <p>イベントや防災講話などの際には、避難所備蓄品の展示やダンボールベッドの組立体験などを行い、避難所を身近に感じただけよう取り組んでいます。</p> <p>住民の方が避難をためらうことのないよう、引き続き避難所の快適性向上に努めてまいります。</p>
25	<p>民生委員児童委員の活動推進に関連して、どの分野の委員や自治会活動も類似していることではあるが、委員のなり手が少ないことの一因として、毎月の会議に必ず出席しなければいけないことが言われている。代理出席でも可能な形にできれば、より関わる人が増えるのではないか。</p>	福祉保健課	<p>呉市民生委員児童委員協議会における定例会は、団体運営上、委員本人の出席が前提として進められており、全地区会長からも概ね理解を得ています。しかし、今後の負担軽減については、地区会長と協議を進め、必要であれば、適切な開催方法を検討してまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
26	<p>学校のトイレの洋式化に関連して、とても狭いスペースの中でトイレの洋式化がされていて、体格の大きな子どもだと難しいのではないかと声を聞いた。予算的に限りはあると思うが、検討いただきたい。</p>	<p>学校施設課</p>	<p>狭いスペースの和式トイレを洋式化する場合は、広さを確保するため、2室分のトイレを1室にするなど、子どもたちが使用しやすいトイレの洋式化を進めていきます。</p>
27	<p>外国人相談窓口の運営に関連して、ポルトガル人の方に対し、広市民センターではポルトガル語による対応が可能である旨を伝えたが、以前相談をした際には断られたとの話であった。近所に住んでいるため、できる限りサポートをしているのだが、もう少し使い勝手の良い相談窓口が欲しい。</p>	<p>地域協働課 市民窓口課</p>	<p>東部外国人総合相談窓口では、ポルトガル語での相談を受けております。今後皆様に、気軽に相談いただける窓口になるよう努めてまいります。</p>
28	<p>交通安全に係る研修等について、交通安全の協議会などとの連携も必要になる。例えばトラック協会やタクシー協会などの目線での交通事故を少なくする取組や、小中学校の生徒、老人会での啓発活動をグリップするような対応が必要。今後、交通事故が増えていくことを危惧している。</p>	<p>地域協働課</p>	<p>呉市には、市内各地域の交通安全活動を行う団体からなる呉市交通安全推進協議会連合会があります。この連合会の取組として、各地区と市の関係各課や警察との連絡調整、意見交換を定期的に行い、早朝交通安全推進活動を行う方たちの交通安全意識の高揚を図るための交通安全大会の開催や、自動車学校の協力の下、高齢者対象の運転研修会などを行っています。</p> <p>また、呉・広警察署音戸分庁舎内に事務所を置く交通安全協会が中心となり、警察や市と連携した幼稚園・保育所や小中学校や高校での交通安全教室の実施や、高齢者が集う福祉施設等へ出向いての啓発活動などを行っています。</p> <p>春・秋の交通安全運動期間におきましては、前記の2団体や警察とともに実施している運動期間出発式へ運送業者等の各協会に参加していただき、タクシーやトラック、バスなどの関係車両のパレードへの参加をしていただいているところです。</p> <p>危惧されておりますように、今年に入ってから交通事故は増加傾向にあり、現在、さらなる交通安全推進活動が必要であると考えておりますので、今後とも、運送関係機関をはじめ、警察や地域団体とも連携しながら、事故防止に努めてまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
29	<p>インバウンドの推進に関連して、野呂山に登ったり、御手洗までサイクリングをするなど、自転車が好きで外国人住民の方が多い。彼らがフェイスブックに載せ、それを見ることで自分が行った気分になり、楽しむことができる。これを意図的に国際交流協会などが計画を立て、動画を作り編集して英語で発信するというようなことができれば、非常に良い。外国人住民自身が、自分で動き、発信する。手伝える必要はあるが、良いと思う。</p>	観光振興課	<p>呉市のことをよく知る市民によるSNS等を活用した情報発信は、観光客の誘客に有効な手段であり、中でも、呉市内に居住する外国人からの情報発信は、同郷の方が関心を持つ情報、本当に欲しい情報を届けることができ、インバウンドの推進にも有効であると考えます。</p> <p>については、呉市国際交流協会や地域日本語教室と協働するなど、関係団体と連携を図っていきます。</p>
30	<p>広地区の白石に住んでいるが、道路が拡幅されきれいになっている。また、浸水も心配していたため、浸水対策の取組は、安心に繋がる。</p> <p>長く住んでいる者は、どこの溝が溢れるか、どの道が安全なのか比較的わかっているが、新たに引っ越された方は知らない。それは、ハザードマップを見てもわからない。長く住んでいる人が、新しく来た人に伝えていく試みが、必要なのではないかと。外国人住民は、在住年数が短い人が多いので、知らない人が多いと思う。</p>	危機管理課	<p>呉市では、市内の各地域において自主防災組織が結成されており、また地域における防災活動の担い手である防災リーダーがおります。これらの組織や人材が主体となって地域住民に広く防災情報を知らせていけるような仕組み作りなど、有効な手段について考えてまいります。</p>
31	<p>県全体が持続的に成長していくため、DXの推進に積極的に取り組むこととしている。今年度は、県全体のDXを効果的に進めるため、県と市町で共同してDXを推進するための新たなプラットフォームとして、県と市町が参画する枠組みである、「DXShip（デジシップ）ひろしま」を始動したところ。</p> <p>県・市町のDXの取組についての情報共有や、デジタル人材の共同採用・配属等の取組を開始している。</p> <p>今後、県・市町で先進的なDXの施策や好事例などを共有することで、住民サービスの向上や行政事務の効率化等につなげていきたいと考えているので、呉市にも、積極的に参加して欲しい。</p>	行政改革デジタル推進第1課・第2課	<p>「DXShip（デジシップ）ひろしま」においては、広島県のリーダーシップのもと、県内市町等との貴重な情報交換の場となっています。</p> <p>デジタル人材の共同採用・配属については、本市も申し込みを行っています。また、県・市町で先進的なDXの施策や好事例などの共有についても積極的に参加してまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
32	<p>KPIとして、観光消費額（年間）を、令和7年に300億という高い目標を掲げている。全体を上げていくという大きな目標立てることも大事だが、1人当たりの消費額単価をどのように上げるかという視点も、非常に難しいが大事である。高付加価値なサービスを生み出し、どのように周知、提供し、リピーターになってもらえるかが大事である。</p>	観光振興課	<p>今年度、ナイトタイム、体験・滞在型及び食を活用したコンテンツを創出する事業者への補助事業を実施し、消費単価の高い観光客を獲得する観光コンテンツの創出を支援しています。</p> <p>本事業で創出された観光コンテンツについては、今年度中に作成予定の呉市公式観光サイトで一元的に情報発信し、来年度以降もフォローアップすることで、観光コンテンツを持続的に提供することを予定しています。</p> <p>「呉市観光振興計画」に基づいて、呉ブランドの確立に向け、既存の観光資源の磨き上げや満足度の高い新たな観光プロダクトの開発を行い、リピーターとなる「呉ファン」を増加させていきます。</p>
33	<p>CRMについて、マーケティングデータを活用して施策に反映し、サイクルを上げて成果を出していくことになる。リピーターを増やす仕組みが非常に重要。</p> <p>一方で、個人情報の扱いには注意する必要がある。双方向のCRMの中でやりとりができれば、結果として呉のファンになるし、将来の来訪者や既に来訪されている方であれば、リピーターになる効果を見込めることができる。</p>	観光振興課	<p>「呉市観光振興計画」に基づいてターゲットの明確化を図っていくため、今年10月10日から運用を開始した呉市観光・地域振興CRM（顧客関係管理）アプリ「マイクレ」は、利用者の行動履歴・消費履歴などのデータを蓄積・解析することで、顧客の管理を行っていくことが可能になります。</p> <p>また、事業者はアンケート調査機能等を活用して商品・サービスの開発を行い、より観光客のニーズに即した商品等を提供することができます。</p> <p>「マイクレ」を通じて、市内事業者と観光客が直接つながり、観光客のニーズに応じた情報などをダイレクトに発信することで、顧客の囲い込みや上顧客の増加につなげ、地域全体で「呉ファン」の獲得を目指します。</p>
34	<p>CRMをインバウンドに活用できるようにされてはどうか。観光連盟でもCRMは緒に就いたばかりだが、今登録は1万7,000人で、インバウンドが大体3,500人程度。台湾の方が多い。今から設計をする段階で、インバウンドやリピーターをどのようにして増やしていくか、エンゲージメントどのように高めていくかを、呉市も上手く組み合わせができれば非常に良いシステムになると思う。</p>	観光振興課	<p>今年度実施するCRM実証事業において導入するCRMアプリ「マイクレ」は、「呉市観光振興計画」に基づき、インバウンド等の新しい観光客層の獲得を目指していくために、4カ国語に対応しており、外国人観光客等も利用できます。</p> <p>加盟する事業者がスタンプラリーやクーポンの発行による誘客施策を展開するなど、満足度の高い、呉の観光を楽しんでもらえる仕組みを本実証事業の中で構築したいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
35	<p>ごみ処理において排出される二酸化炭素は、発生元として大きいいため、循環型社会の構築だけではなく、温室効果ガスを減らす観点からも、新しいクリーンセンターへの更新に合わせ、呉市のごみをどのようにしていくのか、埋め立てや焼却を行うごみをどれだけ減らせるか、リサイクルを増やせるかが、重要になる。ごみ処理をどのようにしていくかという観点で、しっかり今後の呉市のごみ処理のあり方を考えていくことがとても重要。</p>	環境政策課	<p>令和4年4月からプラスチック資源循環促進法が施行され、プラスチック製品の収集及び再資源化が自治体の努力義務となりました。</p> <p>国の方針に基づき、現在、可燃ごみとして排出されている製品プラスチックを資源として分別収集することにより、プラスチック焼却による温室効果ガスの排出量削減とプラスチック資源循環の促進を図る目的で、令和5年度にプラスチックごみの分別収集の実証事業を実施しています。令和6年度はその検証を行い、令和7年度から本格的にプラスチック資源分別収集を開始する予定です。</p>
36	<p>行政に対して、教職員におけるイメージアップが図られることも重要。理系の公務員を技術系だけではなく、一般行政職と同等のキャリアステップ、処遇等を設け、院卒採用における手当の充実、給与面の処遇を向上させる。現在、法学部の一年生も、プログラミングの科目を教養で取っている学生も結構いると聞くため、文系からもデジタル人材としての採用試験を受けられるような科目を作り、採用枠を設けていただく等の対応により、デジタル人材の確保が進めば良いと思う。</p>	人事課 行政改革デジタル推進第1課・第2課	<p>日々、複雑化・高度化する行政課題に対処するためには、優秀人材の確保が必要であり、採用時の給与水準の改善を始め、人材確保を支える給与水準の実現が必要と考えています。</p> <p>また、本市では、デジタル専門職の採用は実施していません。むしろ、デジタル知識は、全職員にとって基本的知識であり、これからの採用に当たっては、文系であっても必須の条件と考えています。</p>
37	<p>呉市の例規集の中で、個人情報保護に関する条例や、デジタル化に関する条例を、どこに位置付けていくのか。例規上の課題や組織再編の課題、ひいては人材確保の課題にも繋がる。</p> <p>組織と人を一体的にどのように育てていくか、条例も法律も個人的には育てていくものだと思う。小さく産み、どんどん機能的に働く条例を作っていくことが課題。</p>	総務課	<p>現行では、「呉市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例」については例規集第5類（処務）第4章（事務管理）に、「呉市個人情報の保護に関する法律施行条例」については同類第4章の2（情報管理）に位置付けています。</p> <p>例規集における位置付けについては、機構改革等における各課の業務内容の変更や条例の所管状況を踏まえ、他の条例の位置付けとのバランスも考慮しながら、適宜、見直しを検討していきたいと考えております。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
38	<p>広島中央地域連携中枢都市圏連携事業について。出口としてどこまでを目指すのか。連携は増えていくことは望ましい一方、仕事が増える可能性もあるため、何をスクラップし、どこを目指して進めるのかが見えやすくなると、職員も仕事がしやすくなる。</p>	企画課	<p>連携中枢都市圏制度は、中核都市が近隣の市町と連携して取り組むことにより、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的としています。</p> <p>本市としても、各市町が持つ独自性や強みを生かし、弱みを補うことで、活力ある地域経済を維持していくとともに、住民が安心して暮らし続けることができる圏域の実現を目指しています。</p> <p>連携事業の中には、他の市町と連携して取り組むことで行政コストの削減や事務の効率化を図ることを目的としている事業もあります。</p> <p>連携事業の実施にあたりましては、毎年、連携市町の意見を聞きながら進めておりますが、今後も引き続き、各市町と連携を取りながら、お互いにメリットが出るように新規事業の実施及び既存事業の見直し等を検討していきます。</p>
39	<p>急傾斜地崩壊危険箇所、或いは土砂災害の警戒区域は、非常にたくさん数がある。そのため、行政のハード対策にだけ依存して、安全な空間が確保できるものではないということが、非常に重要で、市民にも知らせておくことが必要。</p> <p>日頃伝えられていると思うが、危険な箇所の近くに住む方を、味方につけ、異常が無いかどうか、通報いただける環境が非常に大事である。自治会の活動の中でも取り組んでいただくようお願いするような形で進めるのが良いと思う。</p> <p>住民の方とも、異常を見てくれる人という位置付けで、うまくつき合っていくよう、お願いしたい。</p>	危機管理課 土木維持課	<p>【危機管理課】 土砂災害警戒区域等を住民に周知し、適切な避難行動につなげる取組は重要であると認識しております。今後とも地域住民と連携して、災害へのソフト対策を進めていきます。</p> <p>また、地域の自主防災組織や防災リーダーとの連携を強化し、警戒区域等に異常があった際に情報を提供していただくなど、災害を未然に防ぐための関係づくりに努めてまいります。</p> <p>【土木維持課】 梅雨時期には市広報誌において、急傾斜地などに異常がないか、土地所有者で確認・点検を行うよう呼びかけており、問い合わせにも対応しています。</p> <p>また、日常の土木施設の維持管理の中では、地元自治会と対話する機会も多くあるため、今後も一層連絡を密にし、地元的安全対策について協議を行ってまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
40	<p>企業誘致の推進に関して、他の自治体の事例紹介をする。将来的に何か事業を起こしたり、そこに来てビジネスをしたり、地元企業がビジネスをできるようにという目的で、分野を問わず1件あたり100万や200万くらいしか出さない実証実験として募集している。テーマを限らず、少額で数を打つというスタンスで、今、面白くなってきている。目的が、地元のビジネス、サービスを立ち上げるもので、地元企業でも地元外からの方でもOKのスタンス。そういった企業誘致の方法も有りではないのか。</p> <p>呉市はスマートチャレンジでテーマを決め、応募を行ってきた。雰囲気として、真面目な呉市に比べると、かなり緩やかにやっており、それが成功しているようである。垣根を下げ、ハードルを低くして数を打ってみるのも面白いと思う。</p>	<p>商工振興課 行政改革デジタル推進第1課・第2課</p>	<p>【商工振興課】 呉市の企業誘致については、条例に基づく土地や設備取得、新規雇用従業者、固定資産税相当額への助成等を主軸に取り組んでいます。</p> <p>また、チャレンジを促す施策として、起業家支援プロジェクトを実施し、新たな創業・起業の促進にも取り組んでいます。</p> <p>このほか、自助努力と創意工夫ある市内中小企業を支援するため、中小企業小規模企業振興基本条例に基づく振興会議やワーキングにおいて、中小企業の振興施策について議論を行っており、令和4年度及び5年度は、脱炭素経営をテーマに議論を進めるとともに、新たな支援にも取り組んでいます。</p> <p>令和6年度以降については、この枠組みを更に拡充し、新たな施策を議論していきたいと考えています。</p> <p>【行政改革デジタル推進第1課・第2課】 スマートチャレンジにおいては、地域課題に根差した15のテーマを掲げ、ワーキング等を重ね、現在準備中のものを含め9つの実証実験に取り組んでいます。今後、新たな募集を行う場合には、委員の意見を参考にさせていただきます。</p>
41	<p>観光振興について、呉にはあまり行くところが無いとよく言われるが、美しい海や島、自然がすごくあると思う。そういうところは、海外の人も好むと思う。外国の方にも、もっと呉をPRして、インバウンドに力を入れたら良い。</p>	<p>観光振興課</p>	<p>インバウンド向けのPRとしては、現在、多言語対応観光サイト「くれまちダイアリー」にて島嶼部を含めた呉の魅力発信を行っているところですが、そのサイトになかなか辿り着けないといった課題もあり、それらを解消すべく、現在、新たな「呉市公式観光サイト」の構築を行っています。</p> <p>その中で、海や島での体験等を含めたモデルコースの提案を行うとともに、将来的には多言語による情報発信を行うことを想定しています。</p> <p>また、近年は、台湾・香港向け日本情報サイト「楽吃購(ラーチーゴ)！日本」のYouTube動画発信を行うなど、新たなツールを活用して多様な顧客開拓にも取り組んでいます。</p> <p>さらに、今年度は、呉市の島嶼部にフォーカスした動画を作成中で、今後、瀬戸内の多島美の自然などを海外にPRしていきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
42	<p>幸町地区総合整備について、呉駅から美術館までの道を整備し、オープンカフェを設置するなど、のんびりと歩いて美術館まで行ける散歩コースとなるよう、規制も緩やかにしたら良いのではないかと。</p>	企画課	<p>幸町地区総合整備については、今年5月に建築、都市計画、歴史・文化・芸術分野の学識経験者及び物販・飲食・宿泊事業者、まちづくり活動団体、自衛隊関係者で構成される「幸町地区総合整備検討有識者会議」を設置し、令和6年度にかけて幸町地区全体の整備コンセプトや各施設に持たせる役割、機能等の在り方を検討しております。</p> <p>有識者会議での意見を踏まえながら、歴史的にも呉市の特徴的な場所である幸町地区の魅力向上を図り、呉駅やれんがどおり等の中央地区内における回遊性の向上、地域活性化につなげて参ります。</p> <p>※幸町地区総合整備検討に関する情報は、呉市ホームページにおいても掲載しておりますので、併せてご覧ください。 https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/7/aoyama.html</p>
43	<p>経営者の今の一番のストレス、悩み、困りごとは、雇用。人材がいない、若者が全く足りていないところ。産業分野の中で、雇用をもう少し強く訴えかけることが必要ではないかと。</p>	商工振興課	<p>奨学金の代理返済制度導入企業への支援制度について、広島県は県内企業への若者の定着や人材確保を促進するとともに、若年従業員自身も支援することを目的に、一定の条件下、従業員の奨学金の返済額の一部又は全部を負担する中小企業への支援策として設けています。</p> <p>また独立行政法人日本学生支援機構も同様の制度を設けており、まずはこういった既存制度について、市内企業に周知を図っていきたいと考えています。</p> <p>このほか呉市雇用促進協議会においては、市内企業の人事担当者などを対象に、求職者への効果的なアピール方法や従業員を定着させるノウハウの習得を目的としたセミナーの開催、従業員のスキル向上に係る研修費用の一部補助、呉市の魅力ある企業の若者への積極的なPRといった取組を行うなど、市内企業への若者の定着や人材確保に取り組んでいます。</p> <p>今後もこれらの人材確保を目的とした、ソフト面の充実により、企業としての意識改革を中心に、取り組んでいきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
44	<p>雇用という点、人口、子どもの数になってくるが、長期総合計画全般的に、呉市の人口をどう考えていくのかが必要になってくると思う。“誰もが住んでみたい”ぐらい、外部から人が来てくれるような、全体的な施策が必要ではないか。</p>	企画課	<p>第5次呉市長期総合計画 前期基本計画において、呉市の将来の人口展望を示すとともに、施策推進のための横断的な視点として「少子化と人口減少への対応」を設定し、各政策分野の施策を推進しているところです。</p> <p>将来都市像に掲げる「誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち『くれ』」の実現に向けて、子育てしやすいまちづくりや、住みたい、住み続けたいとさせていただくため、まち全体の魅力を上げるよう、各政策分野の施策を推進しています。</p>
45	<p>企業人目線で言うと、奨学金を返しながら仕事をしている子がたくさんいるということを最近よく聞く。雇用した企業の責任かもしれないが、呉に住めば奨学金の返還を呉市とともに少し助成を行うことや、何年間か企業に勤めれば助成を行う。呉市外の企業に勤めていても、呉市に住み続ければ大きな助成を行うなどの、助成の形を訴えていければ良いのではないか。</p>	商工振興課	No. 43と同様です。
46	<p>企業誘致、留め置く活動について、呉市を考えたときには、留め置くことを、いかにして行っていくのかということについて、もう少し力を入れる必要があるのではないか。</p>	商工振興課	<p>呉市では、企業を留置するため、企業の事業拡張等に際し、企業立地条例に基づく助成を行っています。</p> <p>また、現行、呉市工業水道の料金を据え置いているほか、阿賀マリノポリス地区へのRORO船の誘致による流通の効率化など、企業のコスト削減に向けた取組を行っています。</p> <p>さらに今年9月には、工場立地法に基づく工場敷地の緑地面積率・環境施設面積率の規制について、新たに緩和する条例を制定し、対象となる工場については、必要な緑地及び環境施設面積を、工場の敷地面積の5%まで緩和することとしました。</p> <p>この他、強靱な流通網形成に向けたクレアラインの4車線化や平谷線の早期整備、災害に強いまちづくりを目指した砂防工事や河川改良、更には市内のほぼ全域への光通信網の整備など、企業に選ばれる都市を目指し、インフラ整備にも取り組んでいます。</p> <p>今後もこれらの施策を推進していくとともに、委員のご意見を踏まえ、効果的な企業留置施策について、調査・研究していきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
47	<p>リノベーションまちづくりに関しては、自分たちのまちで営み、暮らし、子どもを育てる立場からすると、まちの景色が変わってきており、それを間近で見ることができている環境に、機運の高まりを感じている。次年度以降、続けられるのであれば、呉の形にもう少しマッチし、さらにアップデートした状況でやっていくと、更なる効果が得られるのではないか。</p>	<p>商工振興課</p>	<p>リノベーションまちづくり事業については、同事業にかかる人材の裾野と実施エリアの拡大を目指し、昨年度から今年度にかけて、官民合同による呉リノベーションまちづくり構想策定委員会を立ち上げ、呉リノベーションまちづくり戦略会議の場で、次年度以降の展開について、活発な議論が交わされているところです。</p> <p>なお、次年度以降の具体的な取組を盛り込んだ、「呉リノベーションまちづくり構想」は、来年2月3日開催の第5回呉リノベーションまちづくり戦略会議で最終案が公開される予定です。</p>
48	<p>観光振興計画の方にも関わらせていただいているが、インバウンド推進が少し寂しいと思う。特に音戸町に関しては、「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」という官公庁（農林水産省）の認可もいただき、明るい話題もある。そういったところも含め、もっと推進されたら良いのではないか。</p>	<p>観光振興課</p>	<p>近年、インバウンド客は「訪問・滞在価値」である「世界でそこにしかない魅力（精神性・文化財/建築物・アート・食・自然/風景）を求めており、それらを生み出す背景等を深掘した上で、ブランディングを行う必要があります。</p> <p>今年度、呉市が実施する「観光コンテンツ創出事業」においても、インバウンド客をターゲットとしたコンテンツも採択され、事業者支援を継続しているところです。</p> <p>なお、呉市は、観光庁事業の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地として令和5年3月にせとうちエリアとして採択されており、音戸地域を含めた呉市全域でインバウンド誘客促進を図っていきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
49	<p>観光消費額の目標値の300億を目指している中で、数字の根拠も含めて、どのように取り組んでいくのが重要になっていく。どのように達成していくのかを、是非伺いたい。</p>	観光振興課	<p>令和3年9月に策定した「呉市観光振興計画」では、令和4年度から令和8年度における観光消費額の数値目標を示しており、令和7年を300億円としています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年の観光客数が激減したため、本計画では、令和元年の数値を基準値とし、「令和4年に令和元年の数値に回復している」という想定の下で数値を設定しています。</p> <p>観光消費額を増やすには、一人当たりの観光消費額を増やすこと及び観光客数を増やすことが必要となりますが、今年度、実証事業としてCRMアプリを導入し、観光客の行動履歴や消費動向などのデータを蓄積するとともに、観光客と市内事業者がつながることで関係性を深めることとしています。</p> <p>また、ナイトタイム、体験・滞在型及び食を活用したコンテンツを創出する事業者への補助事業を実施し、消費単価の高い観光客を獲得する観光コンテンツの創出を支援しています。</p> <p>今後も、これらの取組を継続しながら、リピーターとなる「呉ファン」を増やし、リピーターの獲得につなげていきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
50	<p>にぎわい空間の公園利用空間の創出について、幸町地区総合整備の推進は、私たちの法人も審議に参画させていただいている。呉駅前、中央地区のウォーカブルなまちづくり、蔵本通り一帯の公共空間にしても、各構想委員会があるので、できれば鳥瞰図で見た先のランドコンセプトのようなものがあれば、とても良いのではないかと。</p> <p>呉駅から幸町地区に流れても良いし、ウォーカブルな蔵本通りを通り、まちなかに行っても良い。消防署の方でも良い。そういう部分も含めて、鳥瞰図的な流れのものが欲しい。</p>	都市計画課 呉駅周辺事業推進室 企画課	<p>現在、呉駅周辺総合開発を起点とした周辺への回遊性向上に向け、幸町地区総合整備や堺川兩岸の公共空間（中央公園）等を活用した居心地が良く歩きたくなる空間づくりの検討を進めています。</p> <p>まず、呉駅周辺地域では、地域全体を総合交通拠点として捉えた、市全体の交通まちづくり推進の起点となる次世代モビリティにも対応した都市機能を誘導し、市内各地区との回遊性の向上を促進していきます。</p> <p>さらに、総合交通拠点の核となる呉駅交通ターミナルの整備を契機とした周辺地域における連鎖的開発を誘導し、心地よく過ごせるまちなかの形成を努めることで、回遊性を更に高めてまいります。</p> <p>幸町地区総合整備については、No. 42の回答にも記載しておりますが、本年5月に設置した「幸町地区総合整備検討有識者会議」において、現在、整備コンセプトや各施設に持たせる役割、機能等の在り方を検討しております。当地区の再整備により、呉駅やれんがどおり等、中央地区内における回遊性の向上が図られるよう、引き続き検討を進めてまいります。</p> <p>また、今年度から、蔵本通り及び堺川沿いの公共空間を、居心地が良く、歩きたくなる空間とするため、「呉まちなか公共空間デザイン計画」を作成することとしております。計画の検討に当たりましては、地区全体を俯瞰しながら、将来ビジョンを示してまいります。</p> <p>これらの取組を通して、呉駅前、蔵本通り（中央公園）、幸町地区のそれぞれの地区の魅力を高めていくとともに、市中心部の回遊性向上を図り、地域の活性化に繋げてまいります。</p>
51	<p>アーバンスポーツが、まちの中でのスポーツなので、ウォーカブルな蔵本通りの中に欲しいと思う。</p>	スポーツ振興課 都市計画課	<p>蔵本通り等の公共空間に導入すべき機能や活用方法につきましては、「呉まちなか公共空間デザイン計画」の検討会議での議論や意見を踏まえるなどして、検討を進めてまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
52	<p>野呂山がキャンプブームというのもあり、いろんな意味で、さらに活用できたらと思う。大学を考えると、野外実習の施設として利用していきたい。せとうちくれワーケーション誘致の中で、梶ヶ浜コワーキングスペースについて書かれている。施設のホームページを見ると、コテージ梶ヶ浜でかなり楽しそうなことが行われているが、野呂山の方でもできたら良いと思っている。</p>	観光振興課	<p>野呂山山頂にある観光施設等（野呂高原ロッジ、ビジターセンター、レストハウス、セントラルロッジ）は開設から55年が経過し、施設の老朽化、利用者の減少、国有林の景観伐採等が課題となっており、野呂山施設全体のハード・ソフト面の見直しが急務となっています。</p> <p>国有林の景観伐採等を実施するためには、関係機関との調整等が必要となります。</p> <p>今後も、民間活用により野呂山全体の魅力を高めていきたいと考えており、地元や関係機関との調整を図りながら、ご提案の内容も含め、野呂山の特色や魅力を生かした利活用ができるよう検討してまいります。</p>
53	<p>呉地域オープンカレッジネットワークで、本学も助成いただいてきた。これを見てきて、各高等教育機関が各々で行う活動も必要であり、各教育機関が連携して何か1つのテーマで活動ができると、さらに若者たちの交流が進むと思う。こういうことを利用して、さらに周知され、いろんな学生たちが絡めるような施策になればと思う。</p>	企画課	<p>呉地域オープンカレッジネットワークは、加盟している各高等教育機関が地域との交流連携を通じて学術文化の振興・向上を図るとともに、呉地域の活性化や夢の実現にむけて学生が自主的に企画した事業を支援する活動です。</p> <p>現在では、高等教育機関ごとの申請となっていますが、共同で1つのテーマを申請することにつきまして、加盟校や行政機関の意見を聞きながら、申請する枠組みを検討してまいります。</p>
54	<p>ウォークブルについては、現代的な課題に取り組みされる点が非常に良く、これがどんどん進むと良い。その中で、この蔵本通りや中央公園の整備を一気に進めていくことは難しい面もあると思う。そのため、大きなビジョンを描き、それに向けて少しずつ進めていけると良いと思っている。</p>	都市計画課	<p>「呉まちなか公共空間デザイン計画」では、蔵本通り及び堺川沿いの中央公園一帯の公共空間を対象に長い将来を見据えた、夢を感じられるビジョンを作成することとしており、計画作成後は、ビジョンを実現するために、具体的な取組を着実に進めてまいります。</p>
55	<p>緑の力、グリーンインフラをもう少しうまく使っていくことを視点として加えると良いと思った。私どもの計算だが、呉のまちなかのグリーンインフラを導入できそうなエリアの3割くらい入れると、浸水が抑えられるのではないかとの結果が出ており、もう少し、緑の力を強調しても良いと思う。</p>	都市計画課 土木企画室	<p>自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの考え方は、自然環境の保全をはじめ、防災・減災にも寄与するものと認識しています。</p> <p>こうした中、呉市では、「呉市都市計画マスタープラン」や「呉市土木未来プラン」において、緑化の推進や雨水浸透に配慮した施設整備の検討など、グリーンインフラの推進を通じて、豊かで持続可能な都市環境の形成を図る方針としています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
56	<p>呉の中心市街地で、ウォークブルやリノベーションのまちづくり、呉駅や幸町地区という形でいろいろなことが動いていこうとしている。こうした中で、これらの相乗効果が生まれる形にならないといけないと思っている。全体として、どういう将来を目指すのかが、鳥瞰的に見られると良いと思った。</p>	<p>都市計画課 呉駅周辺事業推進室 企画課</p>	<p>No. 50での回答と同様の内容となりますが、現在、呉駅周辺総合開発を起点とした周辺への回遊性向上に向け、幸町地区総合整備や堺川兩岸の公共空間（中央公園）等を活用した、居心地が良く、歩きたくなる空間づくりの検討を進めています。</p> <p>これらの取組を通して、呉駅前、蔵本通り（中央公園）、幸町地区のそれぞれの地区の魅力を高めていくとともに、市中心部の回遊性向上を図り、地域の活性化に繋げてまいります。</p>
57	<p>以前、呉市で行っていた、来てくれ店舗の支援があったら良いというのをずっと思っている。リノベーションスクールは、3日間をほぼ寝ずに事業計画を立てるという過酷な場であり、女性の創業支援などもなされているが、そもそも女性の子育て世代が参加できない。</p> <p>来てくれ店舗のような幅広い方が利用できる創業支援があれば良いと思う。</p>	<p>商工振興課</p>	<p>小売・飲食・サービス業の創業希望者を対象とした「来てくれ店舗公募事業」については、令和2年度をもって終了しましたが、新たな創業支援メニューとして、平成30年度より、全業種を対象とした「起業家支援プロジェクト（ビジネスプランコンテスト）」を実施しており、女性の応募者や採択者も増えています。</p> <p>また、令和元年度からは、「女性の創業支援事業」に取り組み、先輩女性起業家の店舗等で行うプチセミナー（単発）や、昨年度からは連続セミナー「ちょいビジ」を行っており、託児サービスの実施や時間設定の工夫など、子育て世代が参加しやすい取組を行っています。</p>
58	<p>安浦まで行く電車が少ないという意見を聞いている。電車のほとんどが広駅止まりだと思う。午前10時から12時ぐらいの間の電車で1本くらいということを知り、どうにかできないかと思っている。</p>	<p>交通政策課</p>	<p>JR呉線の安浦方面の便数等については、従来から、JR西日本に対して、ダイヤ等の改善要望を行っています。</p> <p>広駅以東については利用者数の減少傾向が続いており、厳しい状況ではありますが、引き続き、JR呉線複線化等期成同盟会の活動等を通じ、粘り強く要望を続けていきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
59	<p>呉に行ってみたい、住んでみたいという人が多いが、いざ住んだときに、雇用の問題や、子育てをどうするのかという問題がある。</p> <p>クレアラインの値段が高く、広島で働こうと思えば、交通費が大変であるため、広島に毎日出て仕事をするのは大変だと躊躇している人もいると思う。また、住む場所についても、多くの空き家があるため、リノベーションして住むことが選択肢にあったとしても、どこの業者に頼めば良いのかが、外からの人には分かりづらい。</p> <p>例えば、リノベーションをここでやっているという予告的な情報の打ち出しをもっと行い、こんな風に住めますというのを、分かってもらえるような告知などができれば、住もうと思う人も増えるのではないかと。</p>	住宅政策課	<p>現在、呉市では移住希望者に対する住居については、市の立場上、特定の事業者を紹介することが難しいことから、「呉市空き家バンク」掲載物件または、宅建協会呉支部をご案内しています。</p> <p>また、令和5年4月1日に開設した「呉市移住定住ポータルサイト」内において、市民参加コンテンツ「#教えてKURETO」を利用して、呉について「知りたい人、質問したい人」と「知ってほしい人」がエックス（旧Twitter）上で交流できるオリジナルのFAQ企画を設けています。</p> <p>さらには、今年度の新たな取組として、呉工業高等専門学校の学生による「インキュベーションワーク」という授業の中で、空き家バンク掲載物件の中から選定した空き家が、どの様に生まれ変わるのか、魅力的なリノベーションの具体例や活用方法などを提案していただき、少しでもイメージが湧くことで、住みたいと思っていただけるよう、事業に取り組んでいるところです。</p> <p>今後も、これら取組のより効果的な情報発信に努め、中古住宅の流通促進及び移住・定住の増加に繋がるよう努めてまいります。</p>
60	<p>親が働いている間に子どもをどうするという点も問題であると思う。</p> <p>他のまちでよく見かけるのは、常設してある子ども食堂である。子ども食堂というと、貧しい子どもたちに何か食べさせてあげるというような、月1回のイベント的なものと捉えられた方が多いと思うが、常設の子ども食堂として、少しお金を取っても良いので、フードバンクなどの食料で作る、作る役目はお年寄りが担うことで、お年寄りにとっても、生きがいや居場所ができる。</p> <p>子どもたちは、そこに帰ってくれば、みんなで集える居場所になる。中通りにこれだけ空き店舗があるのであればできないのかと思う。</p>	こども支援課	<p>令和元年度から、こども食堂や学習支援、子どもの遊び場など子どもの居場所づくりに取り組む団体に対し、開設費及び運営費の助成を行ってきました。</p> <p>今年度までに12団体が助成対象として活動していますが、他のまちづくりの助成制度を利用している団体や助成金に頼らず独自に活動している団体もあり、各地域で子どもの居場所づくりの輪が広がっています。</p> <p>今後とも、中通りも含めた各地域に多くの地域住民が関わる多様な居場所が広がっていくよう、居場所のネットワーク化や、こどもの居場所と地域資源との橋渡しをしてきている、「こどもの居場所づくり地域コーディネーター」とともに引き続き支援していきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
61	<p>インバウンドの話がよく出ているが、呉は明らかに外国人が来ていない。特段、他の観光地に見劣りするところはないはず。インバウンドの人は、列車を利用する。そう考えると、観光案内所を呉駅構内へ移設することは、すごく良いと思う。呉は、観光案内所が観光客に見える場所に無く、案内パンフレットを配架したラックしかない。</p>	観光振興課	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、また、G7広島サミットの開催により、今後、インバウンドを含めた観光客が増えることが見込まれます。</p> <p>このたび、観光客の利便性向上のため、観光案内機能をレクレビル内からJR呉駅構内に移転する予定であり、これまで以上に、観光案内所に多くの観光客が来所されることが想定されるため、観光客に寄り沿った丁寧な対応、そして、ニーズに即した観光案内を適切に行っていきたいと考えています。</p>
62	<p>レンタサイクルなどは、駅の周りにあるようなので、外国人の方が来て、鉄道で移動し、そこからレンタサイクルで回る行程が、欧米人の方では特に多いと思う。</p>	観光振興課	<p>レンタサイクルによる観光周遊は、観光地の雰囲気を感じることができ、手軽な2次交通として、JR呉駅周辺にも普及してきています。</p> <p>観光スポットのある両城地区や畝原地区といった傾斜地のほか、中央地区を周遊する際に、電動自転車やEバイクが移動手段の選択肢として加わることは、観光客の満足度を高める有用なコンテンツであると認識しています。</p> <p>今後も、利用者のニーズをしっかりと捉えながら、必要に応じた情報発信、観光客への情報提供に努めていきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
63	<p>今年の春に思ったのは、桜の木が結構切られていることである。呉を観光するにあたっては、桜の季節に観光客呼び込むというのはあると思う。竹原には桜が多く、色々な人が、呉線に乗って行かれるようである。今年は二河峡や、中央公園の桜も公園整備のために切られている。復活をするのかもしれないが、まだ公園を整備している最中である。昔は、呉の裁判所の桜なども綺麗だったが切られてしまった。桜を大事にしたほうが良いのではないか。</p>	<p>土木維持課 土木整備課</p>	<p>【土木維持課】 街路樹や公園樹木等は、これまでの長い年月を経て成長したものであり、事業等で支障になる場合は極力移植を基本とし、やむを得ず伐採・撤去に至る場合は代替えの樹木を植栽するように努めています。 特に桜については、枯れ枝等を剪定する程度でも市民の方から理由を問われることもあるため、できるだけ慎重な対応を心がけています。また、一般的な品種のソメイヨシノについては、老木の撤去及び新植を一部の公園で実施しています。</p> <p>【土木整備課】 中央公園の整備にあっても、樹木の健康状態等により移植が困難なものを除き、移植可能な桜については出来る限り移植しています。 また、新たに整備する広場周辺にも桜を新植する予定としています。</p>
64	<p>観光振興を産業分野の柱と据えているが、もう少し踏み込んだ施策の展開が必要だと感じる。瀬戸内、山陽地域を見渡してみても、呉の優位性として、JR駅、内海航路を持った港との近接性があるのではないかと。他にも三原や宮島口は少し特殊な地域だと思うが、それにも負けないほどの優位性が呉にはあるのではないかと考えている。 瀬戸内海の多島美へのアクセスのしやすさを、もっと前面に押し出し、広域観光の具体策を示して、それを実現するための観光推進体制を構築する必要があるのではないかと。他地区と比べ、民間事業者や民間団体との連携が足りていないのではないかと。</p>	<p>観光振興課</p>	<p>呉市には航路が多数あり、瀬戸内の島々の観光を楽しむための条件が揃い、JRや道路でも県内各観光地からのアクセスもよく、広域観光に適しています。 誘致活動においては、竹原市・東広島市・江田島市・海田町・熊野町・坂町・大崎上島町と構成する「広島中央地域連携中枢都市圏」、松山市・広島市・廿日市市等と構成する「瀬戸内・松山ツーリズム推進会議」などに参加し、他自治体等と連携した広域観光の推進を行っています。 今後は、市民・事業者・行政などが一体となり、それぞれが役割と責任を担いながら、互いの理解を深め、連携し、情報共有していくことができる新たな観光推進体制を構築する中で、持続的な観光地域づくりを推進する中核的な役割を担う新しい組織のもと、官民がより連携した取組を推進していきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
65	<p>産業分野のキャッチコピーには，“誰もが”と書いている。しかし、資料には、女性の創業支援事業とわざわざ女性を限定した表現になっており、6月の法整備でLGBTやキーワードとしてのジェンダーというのは、今回の資料の中には見受けられない。</p> <p>働き方改革の背景には、この2つの概念は避けて通れないのにも関わらず、わざわざ女性という形で限定するのは、次年度以降、考えた方がよい。</p>	商工振興課	<p>これまでの創業支援事業のアンケート等を通して、潜在的な女性創業希望者が多くいることが分かりました。その中からは、資格や趣味を生かしたプチ創業への意欲や「自己実現のために創業をしたい」といった男性創業希望者からはあまり聞かれない意見や、出産等によるキャリアの中断といった女性特有の課題が見えてきました。</p> <p>そこで、令和元年度より「女性の創業支援事業」に取り組み、「何から始めてよいかわからない」という段階の女性に対して、自分を見つめ直し、働き方を考えるところから始める支援や、女性のコミュニティ形成を通じた、創業や自己実現のための取組をを後押しする支援を行っています。</p> <p>このような女性に寄り添った創業支援は、女性起業家や自己実現をする女性の増加によるジェンダーギャップの解消や、地域の活性化につながるものと考えています。</p>
66	<p>呉の将来を、企業の経済目線で見ると、呉市内の中に仕事を作る、仕事を増やす、それに携わる人をつなげていくことが一番大事なことだと思っている。スタートアップの環境は整ってきており、実際に新規事業者も増えている。課題は、スタートアップ後に、安定した企業経営ができるような支援が少ないこと。財務・税務、法律、雇用面での支援を、しっかり行っていく必要がある。</p>	商工振興課	<p>呉市では、呉商工会議所内に設置されている「呉地域中小企業支援センター」において、くれ産業振興センターを始めとする支援機関や大学、金融機関、更には弁護士・税理士等と連携を図りながら、企業の経営革新や日常課題の解決などに取り組んでいます。</p> <p>併せて、金融機関へ融資資金を預託し、広島県信用保証協会の保証対象業種に当たる中小企業に対し、長期・低利な資金を融資することで、経営継続支援を行っています。</p> <p>また雇用面についても、小林委員への回答のとおり、様々な支援に取り組んでいます。</p> <p>引き続きこれらの施策を総合的に推進するため、PRの充実に務めるとともに、相乗効果により、企業の経営継続につながるよう、有機的な支援に取り組んでいきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
67	<p>相続手続きの手伝いに関する相談が、お盆と正月にすごく増えている。金融資産の相続は何とでもできるが、問題は、動産・不動産の相続が大変困っておられて、結局、そのまま放置となったりするケースである。この辺は、行政が上手に一体的な対応を行っていく必要が、特にこれからは出てくるのではないかと感じている。</p>	市民窓口課	<p>相続に関する相談は近年増加傾向となっており、また相談内容も多様化していることから、細やかな体制を整えております。</p> <p>その対応として、法的専門知識を有する有資格者である「行政書士・司法書士・弁護士」の特別相談をご案内しています。（行政書士：週1回月曜日、司法書士：週1回火曜日、弁護士：週2回水・金曜日）</p> <p>また、令和6年度から不動産の相続登記が義務化されることに対応すべく、令和5年4月から法務局呉支局と連携し「相続登記義務化・国庫帰属・遺言書保管相談」として、月に1回（第2水曜日）の相談体制を新たに設けており、今後も法務局呉支局と協議・連携しながら、市民の相談に寄り添った丁寧な対応をまいります。</p>
68	<p>呉市や東広島市の保育園に、外国人住民の方を対象にアンケートを行った際に、保育士の増員や、外国人の方への支援情報を市でまとめて、保育園や小学校などに配布して欲しいという要望が出ていた。</p> <p>これから外国人住民の人や観光客の人が増えてくる中で、外国人の方々への窓口ができるだけでなく、市として全体の情報の出し方を考える時に、そのような情報がまとまっているだけで、現場で対応されている保育士の負担が減ることは明確にわかっている。</p> <p>情報をしっかりと必要なところに下ろすということ、心がけていただければ、現場の保育士が少しでも楽になると思う。</p>	こども施設課 地域協働課	<p>現在、呉市では、外国人住民の方を対象とした生活全般に係る情報について、令和3年度、生活ガイドブックを作成し、呉市ホームページ、呉市国際交流協会ホームページへの掲載や冊子を配布しているところです。</p> <p>また、呉市広報紙「市政だより」についても、月1回の頻度で掲載内容を多言語に翻訳し、呉市ホームページ、呉市国際交流協会ホームページにて発信しております。</p> <p>さらに、災害等発生時には、呉市国際交流協会Facebookに随時投稿し、情報を発信しているところです。</p> <p>今後は、こうした呉市の取組を市役所内部でも情報共有し、適宜、所管課で確認いただくよう周知し、保育士の負担軽減に努めてまいります。</p>
69	<p>「くれっこアプリについて」</p> <p>東広島市に居住していた時も同様のアプリがあったが、イベント情報が非常に乏しいと感じており、子どもの成長記録を書きとめる程度しか利用していなかった。特に、雨の日のイベントや、真夏の暑い日に子どもを連れて行ける場所などの情報があれば嬉しい。また、主に市内のイベントに限られていたので、近隣の市の情報も入手できると便利だと思う。</p>	こども支援課	<p>「くれっこアプリ」では、主に「くれ子育てねっと」に掲載された記事が自動で配信される仕組みとなっています。</p> <p>近隣のイベントの情報を含めた呉地域での情報は、子育て世帯がSNS等を活用し、相互に情報発信するサイト「くれっこガーデン」で入手できるものと考えています。</p> <p>今後とも子育て世代が知りたい情報の有効な発信方法について研究してまいります。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
70	<p>東広島市に住んでいた時に、呉市まで子どもを連れて遊びに行きたいと思っても、子どもの昼寝の時間とのタイミングが悪く、断念することが多々あった。安価で子連れ家族が気軽に休憩できる場所があれば、足を運びやすくなるのではと思う。</p>	こども支援課	<p>呉ポートピアパークなどの公共施設や民間の商業施設など、子育て世帯が気軽に利用できる場所については、子育て世帯がSNS等を活用し、相互に情報発信するサイト「くれっこガーデン」での口コミ情報で発信していきたいと考えています。 今後は、呉駅周辺総合開発で整備する子育て支援施設においても、ご提案の趣旨を生かして研究してまいります。</p>
71	<p>「クルーズ船誘致」 海の豊かな環境を守ることが重視される一方で、海洋汚染を引き起こすとされるクルーズ船を積極的に誘致することに違和感を感じた。</p>	<p>港湾漁港課 観光振興課 環境政策課</p>	<p>【港湾漁港課】 令和5年4月に御手洗、5月に御手洗・下蒲刈にクルーズ船が寄港（沖泊）し、テンダーボートによる寄港がありました。クルーズ船に限らず停泊中の船によるCO2排出等の環境汚染の可能性はあるかもしれませんが、クルーズ運営会社において環境保全については、十分、認識されており対策も講じられているものと考えています。環境に配慮しつつ、一度に沢山のインバウンドが実現できるクルーズ船誘致は観光振興計画を達成するためにも必要な事業と考えています。</p> <p>【観光振興課】 呉市では、海外からのラグジュアリー船の誘致活動に注力をしています。 日本の文化や生活に興味を抱いている好奇心の強い、比較的富裕な方々の来訪は、市民の誇り、市民が呉市のすばらしさを再認識する大きなきっかけになると考えています。 環境に十分配慮しながら、自然と共生するクルーズの実施に向けて、クルーズ船誘致を進めていきます。</p> <p>【環境政策課】 大型旅客船が訪れた際の海洋汚染については、重油を燃料として起因する大気汚染や油の流出、船内から発生する廃棄物の不法投棄などがあります。市としてこれらを防止するための注意喚起、効果的な啓発など、他市の先進的な取組事例を調査・研究していきます。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
72	「企業誘致の推進」 聞き取り調査等の実施は、誰に、どのような調査をするのか。	商工振興課	調査は、製造業を中心とする市内の中小企業405社に行い、121社から回答（回答率29.9%）を頂きました。 内容は、自社の持つPRしたい技術や強み、進出したい新たな分野などで、太陽光パネルを全量リサイクルできる技術や樹皮破砕装置の処理能力が国内トップクラスであるといった強みを把握できました。 こうした市内企業の強みや意向を踏まえ、今後は戦略的な企業誘致を推進することとしており、令和5年度は、この結果を活用し、市内企業と首都圏の大手企業とのマッチングや、新規事業展開を促進するための事業を行うこととしています。
73	「住民自治組織」 自治会長の任期が長く、やりすぎではないか。会長の任期を決めてはどうか。	地域協働課	自治会は、地縁（一定の区域に住所を有する者）に基づいた任意の団体であり、自治会長の任期については、各自治会ごとに定められています。
74	「小学校制服化」 東広島市などは小学校でも制服を着用しており、呉市でも制服にしてはどうか。	学校安全課	小学校への制服の導入について、呉市では、毎日着る中で汚れや傷みがでること、小学校6年間での成長に伴い、買い換えが必要となることなどから、保護者の経費負担を考慮して導入しておりません。
75	「中学校の制服」 夏のシャツを、ポロシャツも可にしてはどうか。汗もかくし、動きやすいポロシャツでもよいのではないか。	学校安全課	現在、ポロシャツの着用については、各学校の生徒指導規程に示されており、ポロシャツを制服として指定している学校としていない学校が存在します。また、ポロシャツの導入については、各学校の判断となり、導入する場合には、生徒指導規程の見直しが必要となりますが、見直しをする際には、生徒、保護者も参画できるような体制を整えることを指導しております。

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
76	<p>「空き店舗の再利用化」 空き店舗の低価格での貸出しについて。空き店舗を安い賃料で提供すれば、街が活性化するのではないか。週末のみや、1日貸しも有として、シェア飲食店など。</p>	<p>商工振興課</p>	<p>まちの活性化のためには、空き店舗等の遊休不動産の利活用が必要であり、そのためには遊休不動産を所有する不動産オーナーの意識変容が必要となってきます。 そこで、令和元年度より遊休不動産を新しい方法で再生・活用して、生まれ変わった遊休不動産を核に、まちを連鎖的に変えていく「リノベーションまちづくり事業」に取り組んでいます。 同事業の中心的な取組である「リノベーションスクール」では、中央地区商店街に実在する空き店舗等のうち、不動産オーナーの協力が得られたものを題材に、市内外から集まった受講生が活用案を提案し、その事業化を目指しています。 これまで4回のスクールを通して、5件の提案が事業化し、その周辺で波及効果（新規出店）が出ています。さらに、複数の事業化準備案件もあるなど、まちに変化の兆しが生まれています。 なお、上記の事業化に当たっては、事業者に寄り添った家賃設定や1日貸しなど、不動産オーナーから協力を得ています。 今後も、リノベーションまちづくり事業等を通して、不動産オーナーの意識変容を促していきたいと思っております。</p>
77	<p>KPIの「子育て支援に関する行政サービスに満足している人の割合」について、基準年（R1）が22.2%、目標年（R7）が25.0%とあるが、非常に低い数値であると感じる。目標年（R7）については、もう少し高い数値目標を掲げて良いのではないかと。もちろん、そのための具体的な取組が必要である。</p>	<p>こども支援課</p>	<p>当該KPIについては、平成26年度の調査結果（20.5%）と令和元年調査（21.9%）の上昇率1.4%の2倍の2.8%上昇を目指し、25.0%を達成することを目標としたものです。 目標値を上回るためにも、既存の補助メニューを活用した子育て支援施策を着実に実施するとともに、子どもの居場所づくり事業などの市独自の事業も行っていくことで市民の子育て支援に関する満足度を上げていきたいと考えています。</p>
78	<p>KPIの「地域福祉計画の策定」について、「1 地域福祉の推進」の評価指標として不十分だと思う。計画の策定で「1 地域福祉の推進」が評価できるのは計画策定年のみ。その後は、計画の推進を評価すべきだと考える。</p>	<p>福祉保健課</p>	<p>委員のご提案や他の事業の実施状況等を踏まえて、KPIのより良い設定方法、適切な評価・検証方法について、研究していきたいと考えています。</p>

No	委員からの提案・意見	対応課	呉市の回答
79	<p>「子どもの学習・生活支援事業」について、令和3年度：55回、令和4年度：98回、令和5年度：50回（見込）とあるが、なぜ令和5年度が前年度の半分を見込みとしているのか。その根拠を教えてください。むしろニーズとしては増加しているのではないかと。</p>	生活支援課	<p>当事業は、毎週土曜日に呉教室と広教室で実施していますが、令和5年度について、2会場で実施しても同日に実施する場合誤って1回で計上していたものです。正しくは、100回（2会場×50日）であり、令和4年度並の実施を予定しています。</p>